

キャリアス就活
[career+]

2020卒 理系学生の序盤の就職活動（専攻分野別）

2019年5月

株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

調査概要

<調査概要>

2020年卒の理系学生の就職戦線序盤の活動状況や志向について、専攻分野（機械・電気系／情報系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析しました。

調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学生（理系は大学院修士課程含む）

サンプリング : キャリタス就活2020 学生モニター

調査方法 : インターネット調査法

	第2回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査	インターンシップ 特別調査
調査時期	2018年11月	2019年1月	2019年2月	2019年3月	2019年3月
回答者数	1,207人	1,210人	1,322人	1,318人	726人
理系全体	462人	449人	491人	487人	292人
機械・電気系	101人	91人	97人	92人	58人
情報系	64人	69人	64人	77人	40人
化学・農学・薬学系	122人	119人	136人	127人	81人

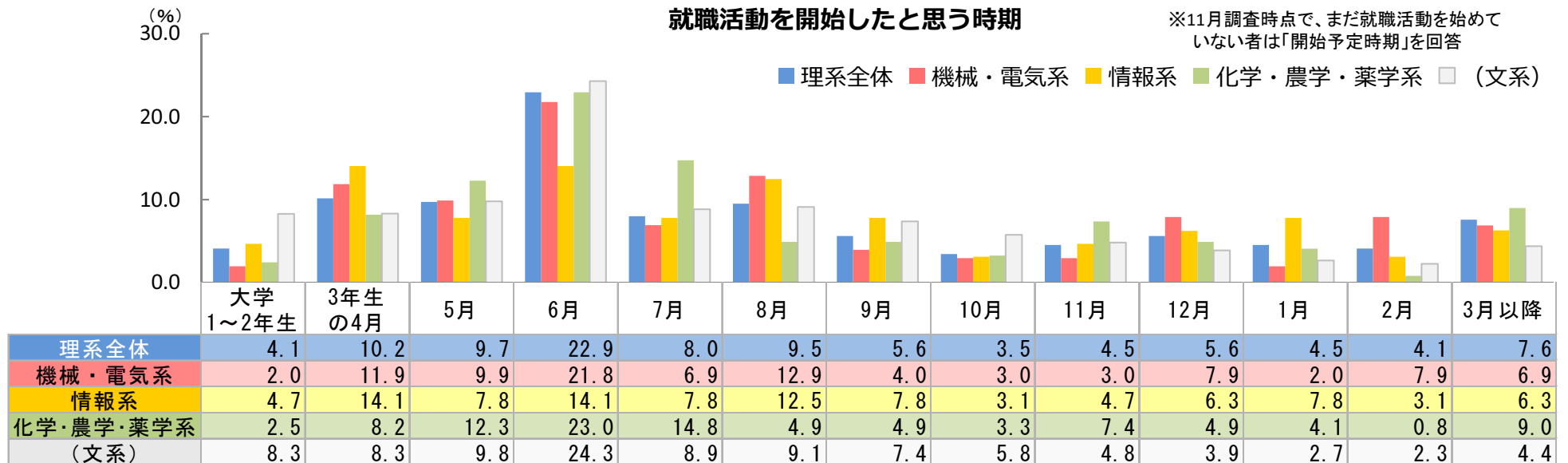
* 理系全体には、「機械・電気系／情報系／化学・農学・薬学系」以外の理系学生を含む

<目次>

1. 就職活動の開始時期	P3	7. 2月時点の本選考受験状況と内定状況	P9
2. インターンシップ参加状況①	P4	8. 3月1日時点の志望業界	P10
3. インターンシップ参加状況②	P5	9. 3月1日時点の志望職種	P11
4. 就活準備イベント参加状況	P6	10. 「面白そう」と感じる仕事	P12
5. 就職活動準備状況	P7	11. 「雰囲気が良い」と思える職場	P13
6. 就職活動に関する情報の入手先	P8	12. 自分にとって「働き甲斐のある企業」	P14

1. 就職活動の開始時期

- 就職活動を開始した時期は、いずれの属性も大学3年(修士1年)の6月が最多。情報系は4月も同率が多い。
- 6月までに就職活動を開始したのは、文系学生は過半数(50.7%)、理系学生は4割台で、文系の方が開始時期は早い。
- 就職活動スタートは、いずれも「インターンシップ情報を探す・応募する」が最多。情報系は「インターンシップに参加する」も多い。



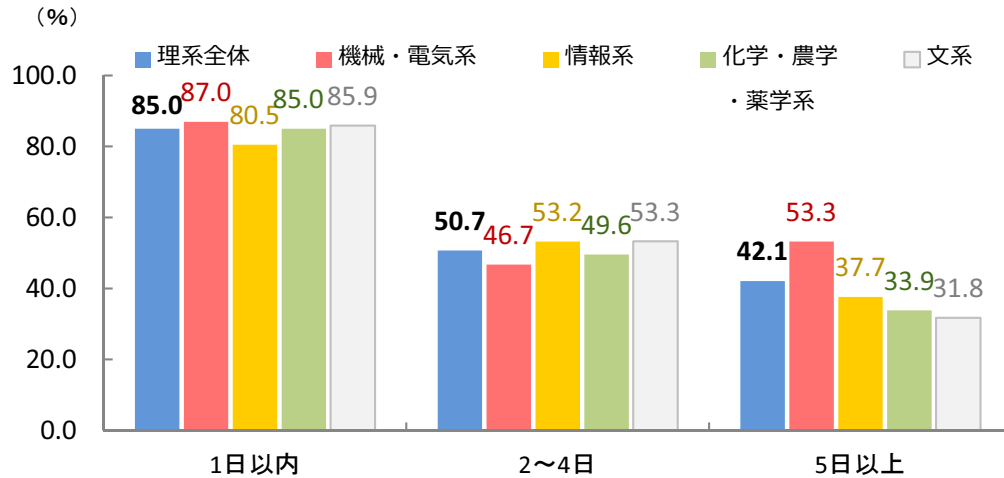
<就職活動を開始したと思う行為>

	理系				(文系)
	理系	機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系	(文系)
インターンシップ情報を探す・応募する	23.8	27.7	20.3	25.4	19.5
自己分析を始める	17.7	18.8	12.5	20.5	15.6
就職情報サイトに会員登録をする	13.4	16.8	6.3	16.4	12.3
インターンシップに参加する	12.8	9.9	15.6	7.4	13.7
就職ガイダンスに参加する	10.4	11.9	6.3	11.5	10.9
企業にエントリー(プレエントリー)をする	7.4	5.0	14.1	6.6	5.6
合同企業説明会に参加する	5.2	4.0	9.4	0.8	5.6
就職準備イベントに参加する	4.3	2.0	9.4	6.6	10.2
企業の本選考(筆記、面接など)を受ける	2.4	2.0	3.1	3.3	2.6

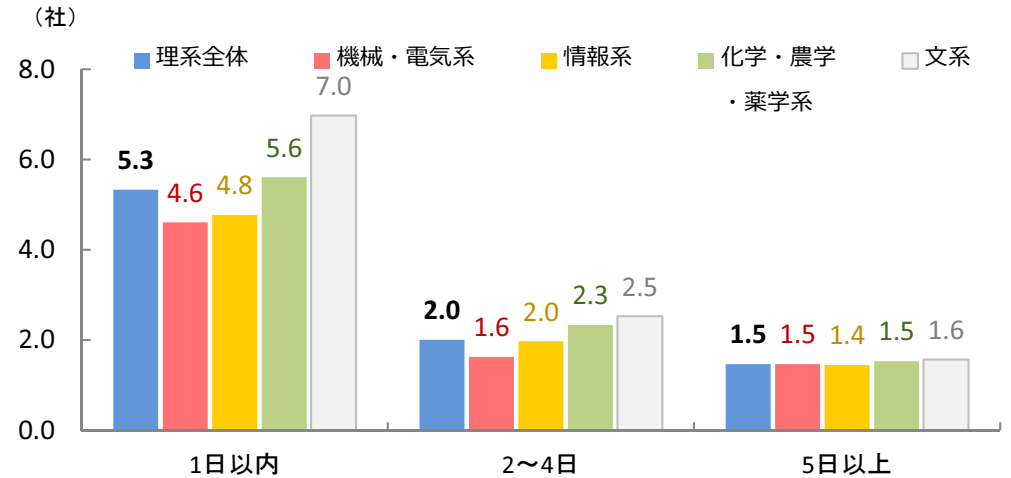
2. インターンシップ参加状況①

- 1日以内のプログラムは、いずれの属性も約8割が参加経験を持つ。機械・電気系は5日以上への参加率が他の属性より高い(53.3%)。
- 参加社数は1日以内のプログラムにおいて文理差が大きく、文系7.0社に対し、理系は5.3社。5日以上は属性による差はほとんどない。
- 理系学生の参加時期は、5日以上のプログラムは8月、9月に集中。1日以内のプログラムは秋以降も継続して多く、2月が最多(58.7%)。

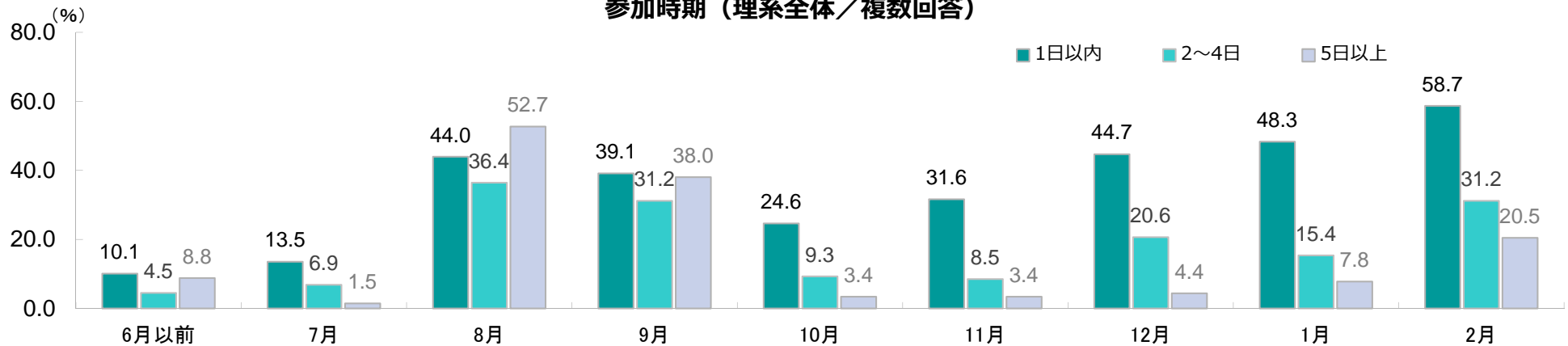
インターンシップ参加経験 (3月時点)



インターンシップ参加社数 (3月時点)



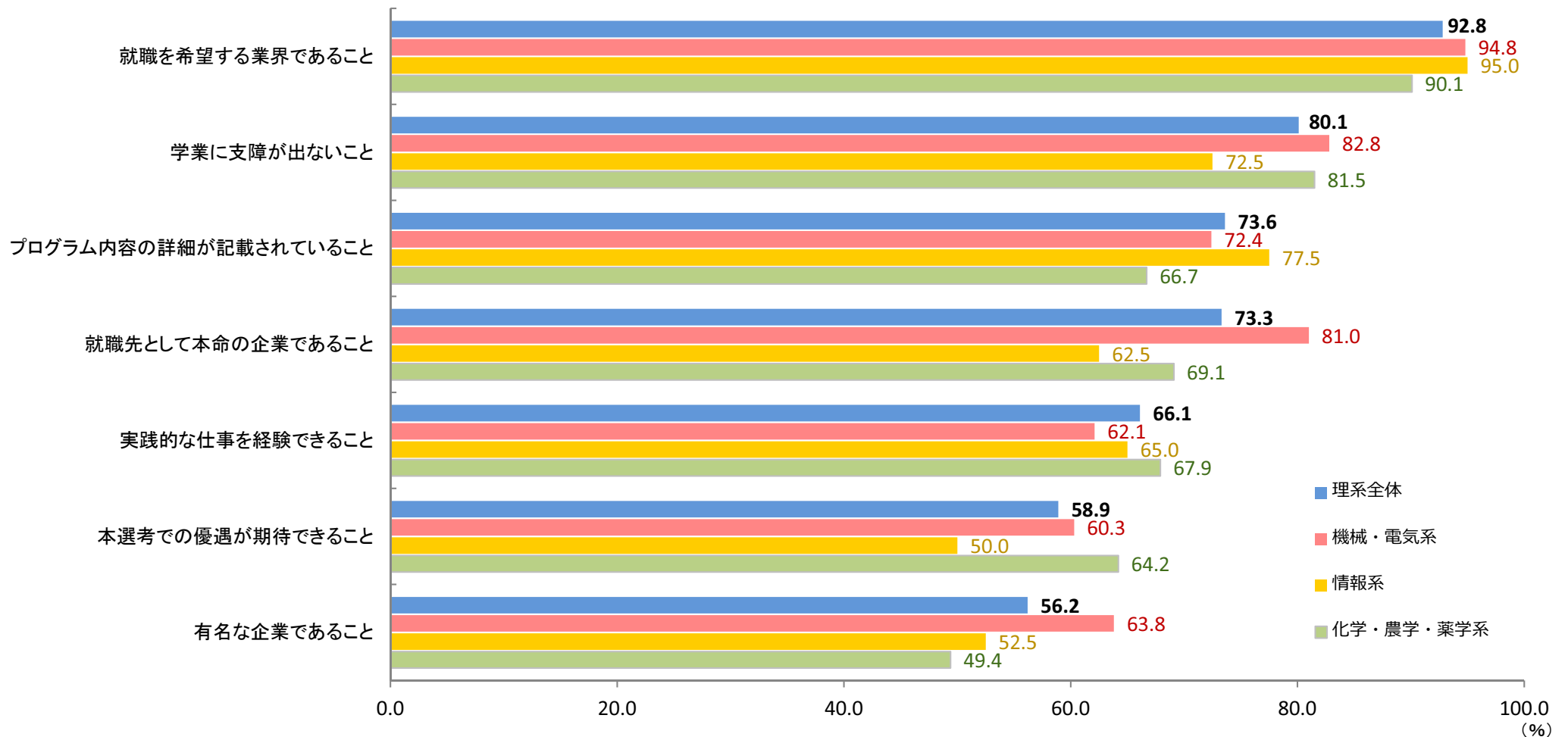
参加時期 (理系全体/複数回答)



3. インターンシップ参加状況②

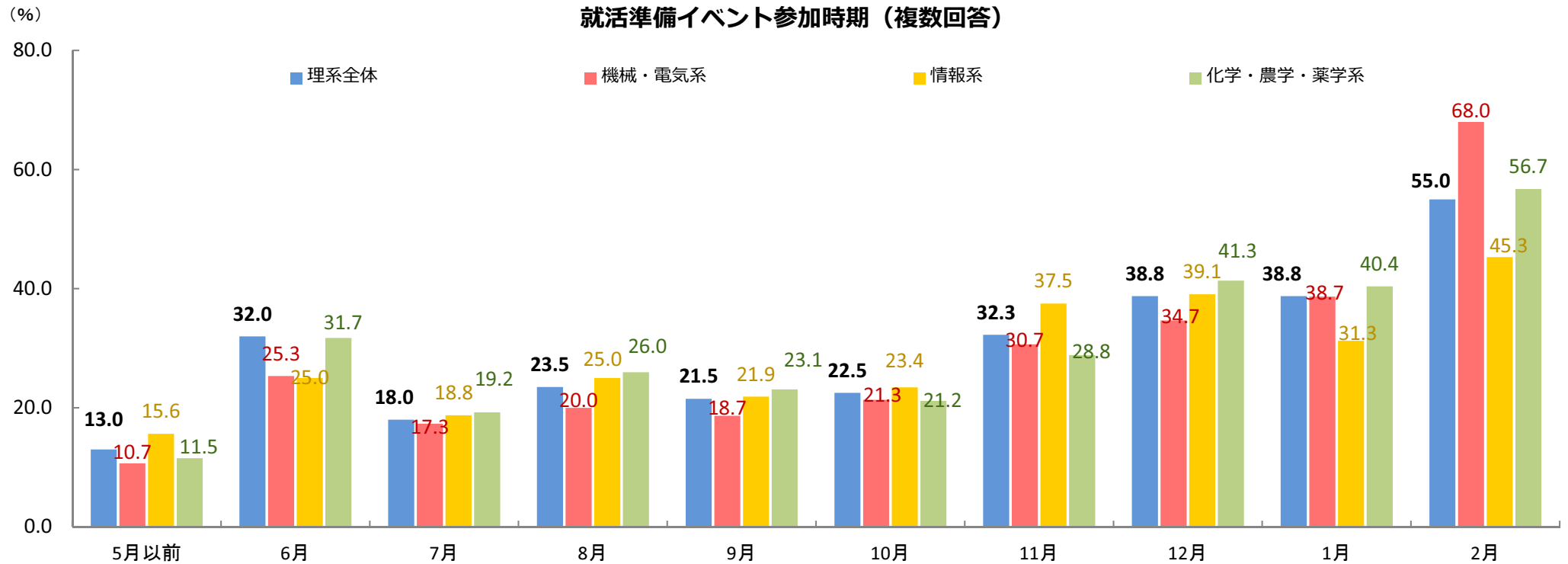
- 探す際に重視した点は、いずれも「就職を希望する業界である」が最多。特に、機械・電気系、情報系で高い。
- 機械・電気系は「就職先として本命の企業であること」が他の専攻より高く、就職を意識してインターン先を選ぶ傾向が強い。情報系は「プログラムの詳細が記載されていること」の割合が高く、内容面を重視。化学・農学・薬学系は「本選考での優遇が期待できること」が高め。

インターンシップ先を探す際（申し込む際）に重視したこと



4. 就活準備イベント参加状況

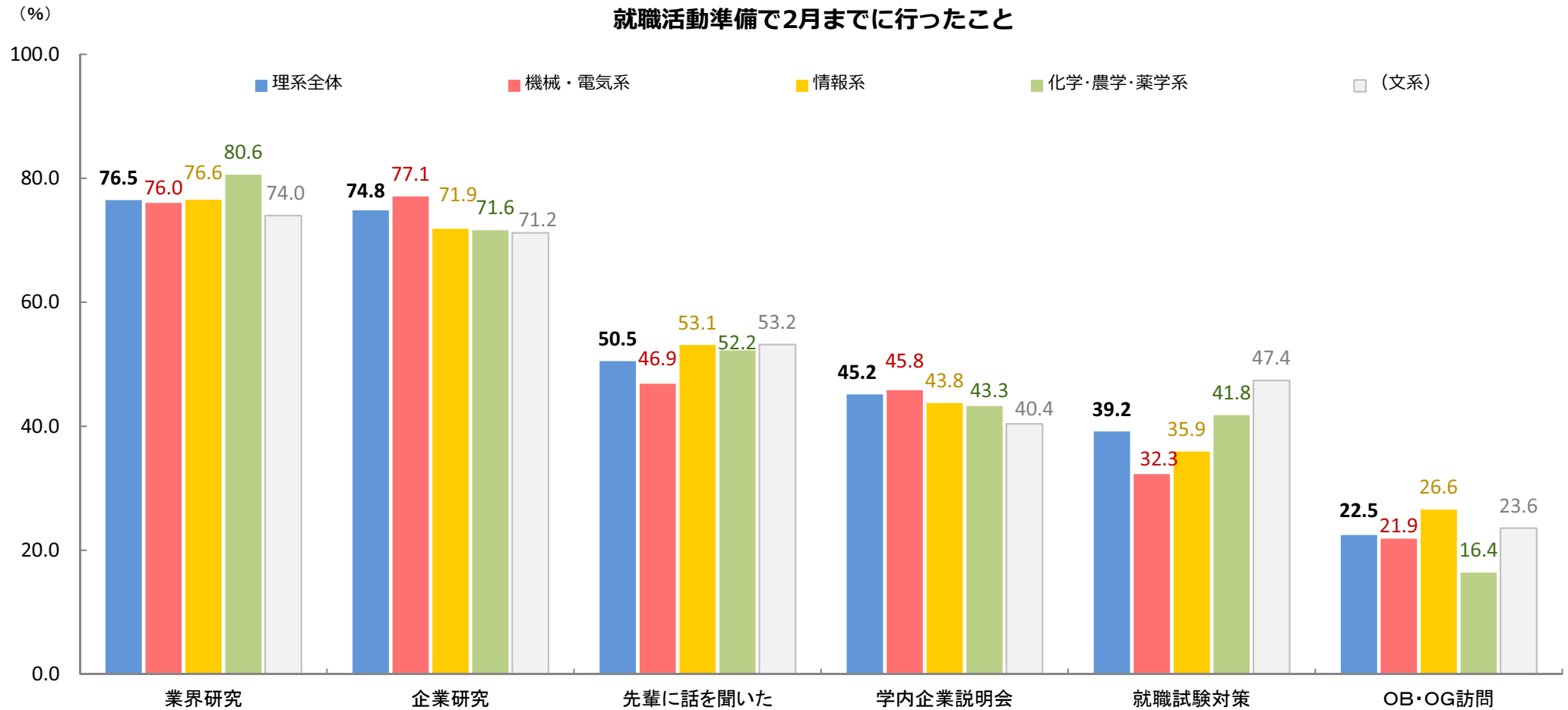
- 就活準備イベント(インターンシップイベント、業界研究イベントなど)の参加率はいずれの属性も8割を超える。
- 理系学生の平均参加回数は4.9回。化学・農学・薬学系は他の専攻よりやや多く、平均5.1回。
- 最も参加が多い時期はいずれの専攻も2月だが、機械・電気系において特に2月の参加率が高いのが目立つ(68.0%)。



	理系				(文系)
	理系	機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系	
就活準備イベント参加経験 (%)	82.1	81.5	83.1	81.9	88.8
就活準備イベント参加社数 (社)	4.9	4.6	4.2	5.1	6.4

5. 就職活動準備状況

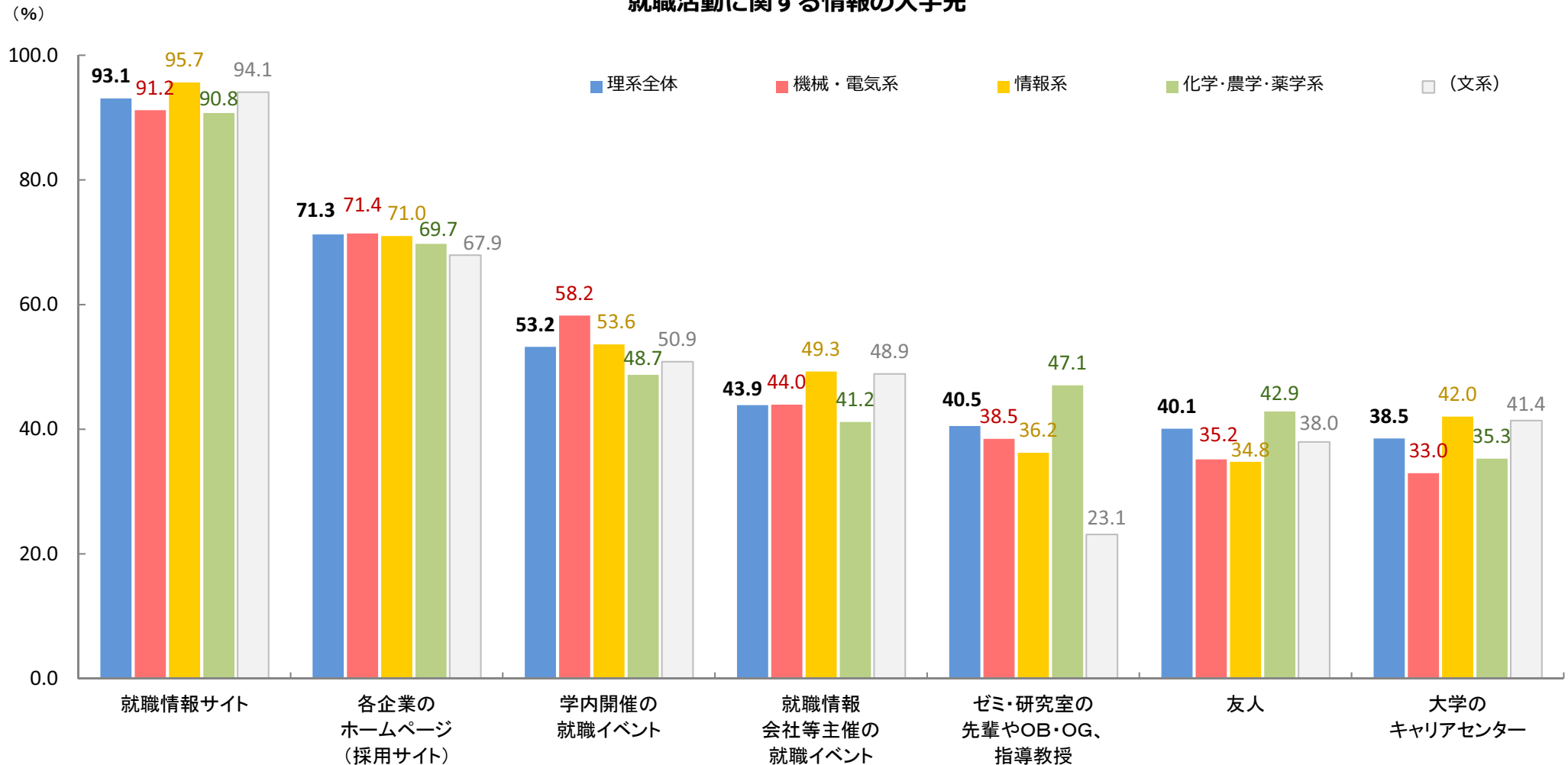
- 2月までに「業界研究」「企業研究」を行った学生は、いずれの属性も7割を超える。化学・農学・薬学系は「業界研究」が8割超と高い。
- 機械・電気系は「企業研究」の実施率が高く(77.1%)、「業界研究」を上回っているのが特徴的。



6. 就職活動に関する情報の入手先

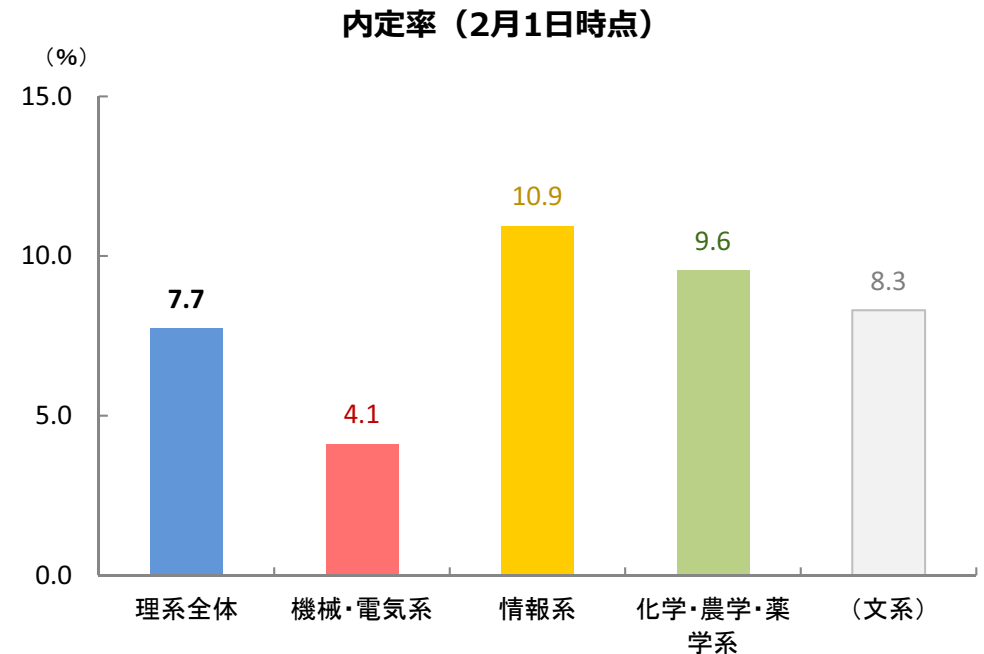
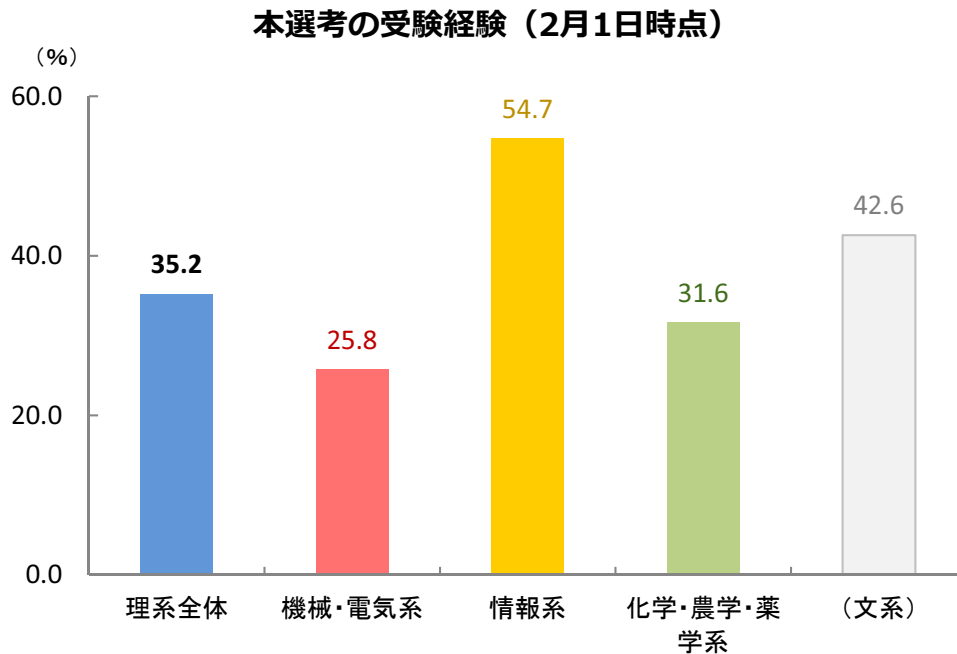
- 上位2項目「就職情報サイト」「各企業のホームページ(採用サイト)」は、属性での大きな差は見られず広く利用されている。
- 文理で差が大きいのは、「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教授」。化学・農学・薬学系では半数近い(47.1%)。

就職活動に関する情報の入手先



7. 2月時点の本選考受験状況と内定状況

- 情報系は過半数(54.7%)が2月1日時点で本選考を受験しており、他の専攻よりかなり早い。
- 2月1日時点の内定率も情報系は1割を超えて高い(10.9%)。機械・電気系(4.1%)の2倍以上。



	理系				(文系)
	機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系		
本選考受験社数	2.3	2.3	2.8	3.0	
内定社数	1.0	1.0	1.4	1.4	

※それぞれ、本選考受験経験者、内定取得者を分母とした数値

8. 3月1日時点の志望業界

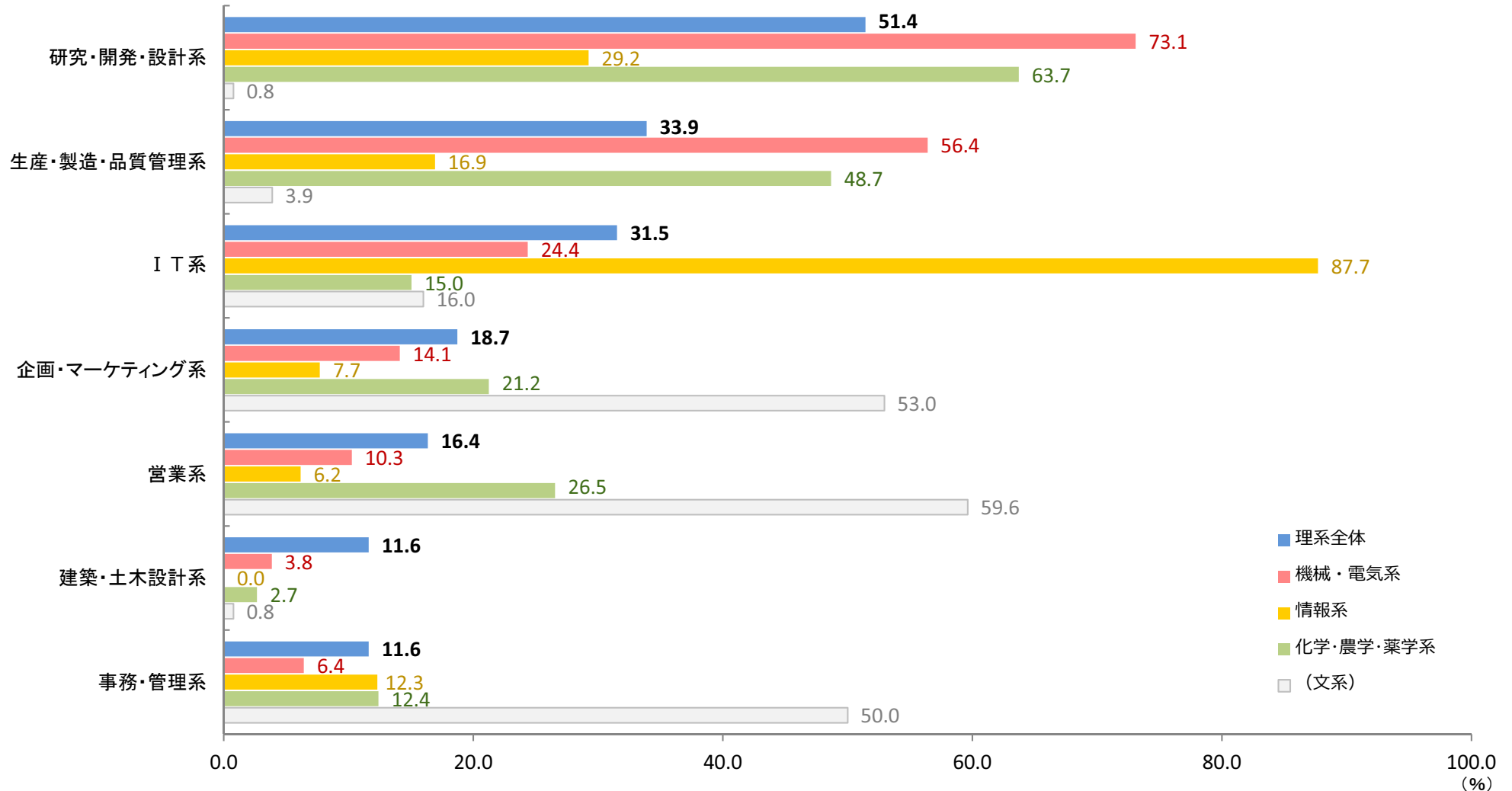
- 機械・電気系学生の志望業界は、1位「電子・電機」(50.6%)、2位「精密機器・医療用機器」(40.0%)。
- 情報系学生は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」に集中しており、7割に近い(68.1%)。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「素材・化学」(55.3%)、2位「医薬品・医療関連・化粧品」(41.2%)の順。
- いずれも専攻分野との関連の強さが表れている。

※5つまで選択 (%)

	理 系			文 系		
		機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系		
1	素材・化学 24.8	電子・電機 50.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 68.1	素材・化学 55.3	銀行 19.3	
2	電子・電機 21.3	精密機器・医療用機器 40.0	情報・インターネットサービス 66.7	医薬品・医療関連・化粧品 41.2	運輸・倉庫 16.9	
3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 20.8	自動車・輸送用機器 38.8	通信関連 31.9	水産・食品 36.0	建設・住宅・不動産 15.5	
4	医薬品・医療関連・化粧品 19.9	機械・プラントエンジニアリング 35.3	電子・電機 22.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 20.2	マスコミ 15.5	
5	情報・インターネットサービス 19.5	素材・化学 17.6	自動車・輸送用機器 18.1	精密機器・医療用機器 14.0	商社（総合） 15.4	
6	水産・食品 18.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.6	調査・コンサルタント 12.5	電子・電機 13.2	調査・コンサルタント 13.9	
7	自動車・輸送用機器 17.7	医薬品・医療関連・化粧品 14.1	精密機器・医療用機器 11.1	自動車・輸送用機器 13.2	水産・食品 13.0	
8	精密機器・医療用機器 15.9	水産・食品 14.1	マスコミ 9.7	農業・林業・鉱業 12.3	情報・インターネットサービス 13.0	
9	建設・住宅・不動産 13.9	鉄鋼・非鉄・金属製品 14.1	官公庁・団体 8.3	商社（専門） 11.4	官公庁・団体 12.6	
10	調査・コンサルタント 12.1	エネルギー 10.6	証券・投信・投資顧問 6.9	調査・コンサルタント 9.6	商社（専門） 12.3	
		運輸・倉庫 10.6	商社（総合） 6.9			

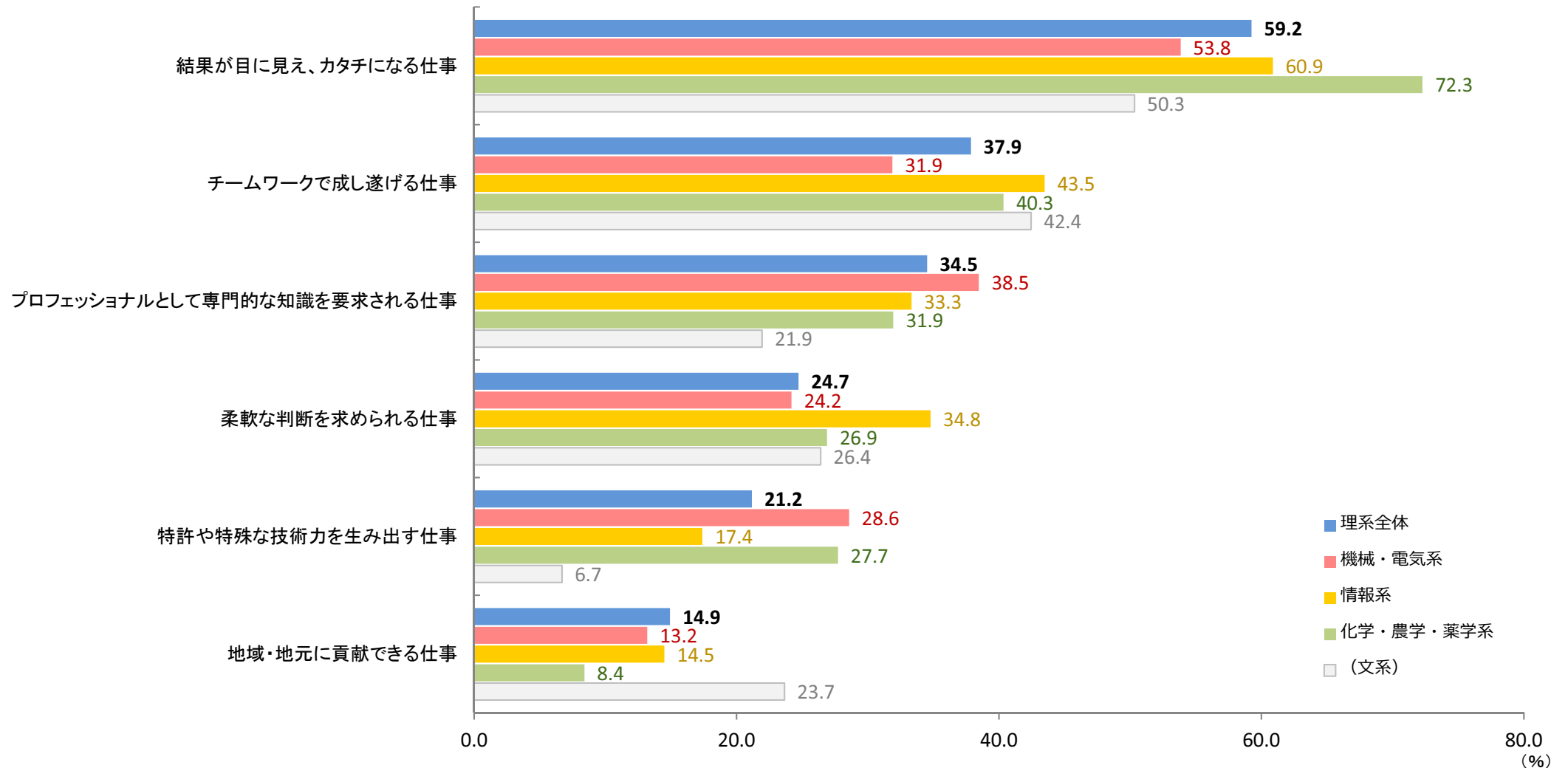
9. 3月1日時点の志望職種

- 志望職種は、機械・電気系と化学・農学・薬学系は「研究・開発・設計」が最も多い。情報系は「IT系」職種に集中(87.7%)。
- 「IT系」職種は、機械・電気系学生で3位、化学・農学・薬学系学生で5位。文系学生でも4位に入っており、属性を問わず志望。
- 化学・農学・薬学系学生は「営業系」「企画・マーケティング」も2割を超え、文系就職を視野に入れる学生が比較的多い。



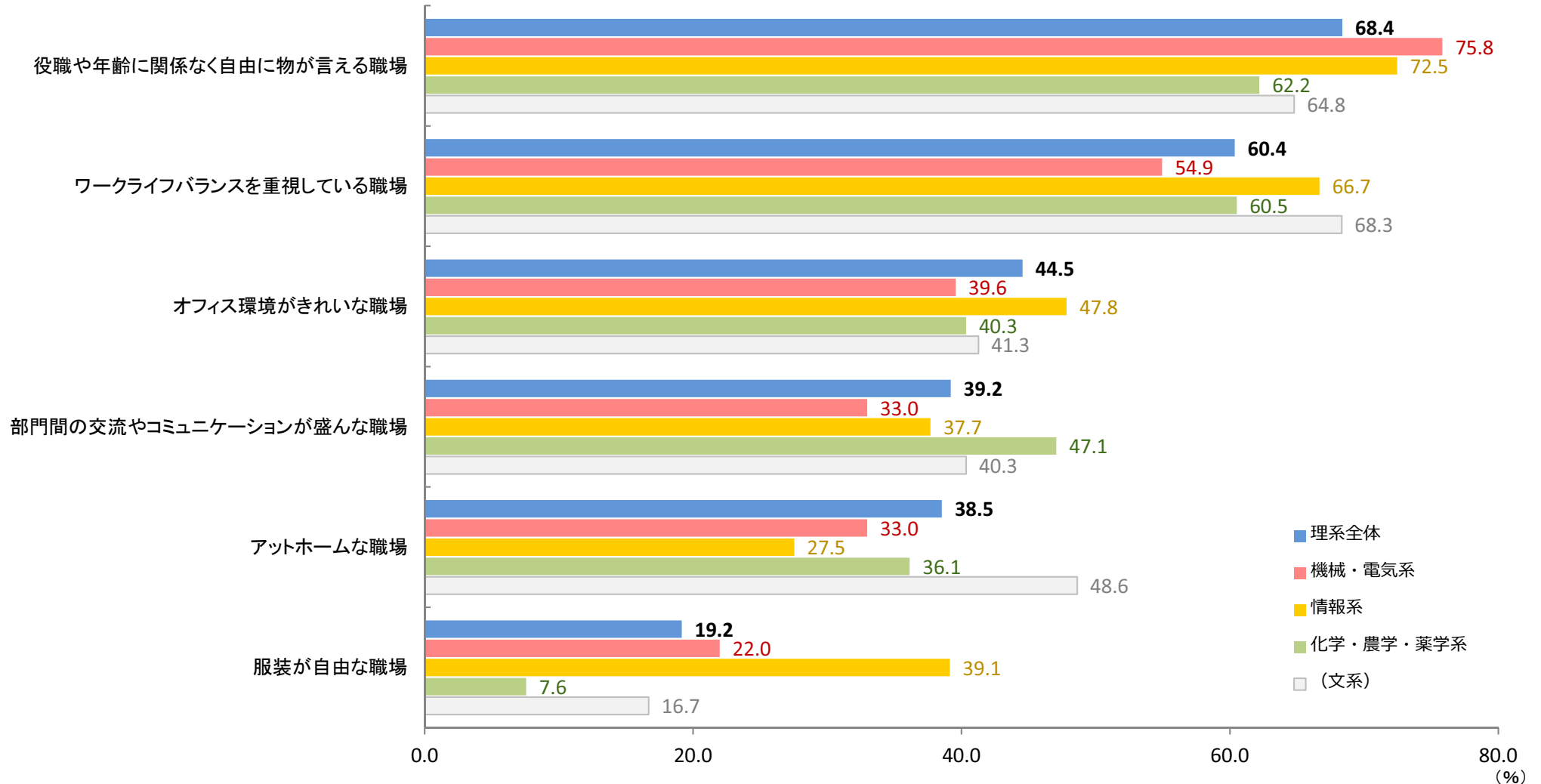
10. 「面白そう」と感じる仕事

- 理系全体で最も高いのは「結果が目に見え、カタチになる仕事」(59.2%)。特に化学・農学・薬学系学生で高く、7割を超える(72.3%)。
- 機械・電気系学生は「プロとして専門的な知識を要求される仕事」の割合が高く、「チームワークで成し遂げる仕事」は他より低い。
- 情報系学生は、「チームワークで成し遂げる仕事」「柔軟な判断を求められる仕事」が他の専攻よりも高いのが目立つ。



11. 「雰囲気が良い」と思える職場

- 「役職や年齢に関係なく自由に物が言える職場」が高い。特に機械・電気系と情報系では7割を超え、風通しの良さを好む傾向。
- 情報系学生は、「ワークライフバランスを重視している職場」「オフィス環境がきれい」「服装が自由」が他の専攻よりも高い。
- 化学・農学・薬学系学生は、「部門間の交流やコミュニケーションが盛んな職場」が高く、「服装が自由」が低い。



12. 自分にとって「働き甲斐のある企業」

- いずれの専攻も「自分を認めてくれる上司・先輩がいる」が最多。
- 化学・農学・薬学系学生は、「社会の役に立っている実感がある」が他の専攻より高い。「お客様から感謝してもらえる」も高い。
- 情報系学生は「成果や実績次第で給与が上がる」「組織の中で出世している実感がある」が高く、上昇志向が目立つ。

